

女性が輝く社会へ

近年、社会で活躍する女性が増えています。少子高齢化による社会の担い手不足が叫ばれている現在、女性の社会進出がますます重要になっています。

お米づくりに情熱をかけて

「仕事においては、『まあこんなものだろう』、『まあこれぐらいいいや』っていう風に、妥協することをしたくないのです」

そう語るのは、向原町にある有限会社時川プロダクト、株式会社一蔵の代表取締役を務める時川一子さん。時川プロダクトではお米の生産を、一蔵ではお米の販売を行っています。

「どんなにこだわって作ったお米も、その年の天候や米の相場次第で努力が報われないことがあります。しかし、そんな時でも自分から考えて行動して、状況を打開していく必要があると思います」

そう語る時川さんは、お米の販売方法にもこだわっています。常食用に3kg・30kg単位で販売しているものももちろんありますが、お米が主役になれるよう、冠婚葬祭で重宝するギフト用のお米を販売しています。

経営者としても、社員のことを常に真剣に考えており、「一生懸命働いてくれる社員の生活が豊かになるよう、利益を社員に還元していかなくてはならないと考えています」と時川さんは言います。また、今年の時川プロダクトに新入社員が3名入ってきたこともあり、「若い人が農業に情熱を注ぐことができるように、農業をもっと活発なものにしていきたい」と、次世代につながる農業を展開しようとしています。

また、お米にかける情熱も人一倍です。「現在64haある水田のうち、1.4haは無農薬栽培に取り組み、その一部は育苗からはで干しをするという昔ながらの米づくりを行っています。安全でおいしい、食べた人が感動できる米作りを目指していきたいと思っています」

日本人には欠かすことができないお米。お米のおいしさと安全性を追い求め続ける時川さんの活躍に、これからも目が離せません。



女性が輝くために…

女性が社会に出て働き続けられるよう、環境を整えている企業があります。

「たんぼぼ」で室内遊びをする子どもたちと、それを見守る保育士。室内では、子どもたちの明るい笑顔と保育士の優しい笑顔が溢れている。



働きやすい環境づくり

J A 吉田総合病院。ここでは、医師、看護職、医療技術職、事務職など330名の女性が働いています。女性が結婚・出産をしても働き続けることができるよう、平成4年にJ A 吉田総合病院の保育室「たんぼぼ」が開設されました。

保育室の保育時間は午前8時～午後6時30分。1～3歳までの子どもたちを、現在3名の保育士で対応しています。

「長く勤務できる職場環境を整える目的で設置しました。勤務先である病院の中に保育室があるため、ここでは子どもの急な体調変化にも対応することができます。働く女性のキャリアを生



J A 吉田総合病院 人事課長
寺岡 康治郎 さん

かせる労働環境の整備に寄与できているのではないかと思います」と語るのは、J A 吉田総合病院 人事課長 寺岡康治郎さん。病院内の人工腎透析センターで看護師として働く原田法子さんは、「現在1歳の子どもを保育室に預けているのですが、職場に保育室があると、出勤と同時に子どもを預けることができるので、とても助かっています。保育室で過ごす子どもたちの様子や、その日にあったことなどを保育士さんから丁寧な連絡ノートに書いてもらえると、子どもの反応を見ても保育室で楽しく過ごしているのがわかるので、安心して子どもを預けることができます」と語ります。女性が安心して仕事に取り組める環境が、女性の職場での更なる活躍を後押ししています。



J A 吉田総合病院 看護師
原田 法子 さん



(上) 向原町戸島にある時川プロダクトの水田の一部。
(下) 一蔵が販売するギフト用のお米。心を込めて作ったお米が上質な箱と紙で包装されており、高級感がある。



(有)時川プロダクト・(株)一蔵 代表取締役
時川 一子 さん